

歴史（大崎駅）

明治 34 年に日本鉄道品川線の駅として開業しました。その後、駅周辺は今では想像もできない工場群で、山手線の駅の中でも 1、2 を争う地味な駅と言われていました。昭和 45 年頃までは明電舎大崎工場への専用線があり貨物輸送を行っていました。

平成 14 年（2002 年）12 月 1 日、りんかい線が延伸開業し埼京線が当駅まで延長されてりんかい線との直通運転を開始しました。そして湘南新宿ラインの停車駅となったのです。更に、令和元年 1 1 月に相鉄・JR 直通線が運行開始し停車駅となりました。

平成 30 年度（2018 年度）の 1 日平均乗車人員は、173,136 人であり、上野駅に次いで第 14 位、増加率は前年比 5.0%増とベスト 100 ではトップの増加率で、長らく 14 位、15 位だった有楽町駅・立川駅の 2 駅を同時に抜き去るなど目覚ましい利用者数増加を果たしています。また、りんかい線では 8 駅中第 1 位の乗車人員 65,415 人です。

近年の駅周辺の目覚ましい発展ぶりは皆さんご存知のとおりです。

そして、大崎駅に隣接する「東京総合車両センター」は山手線の全車両の所属基地であり、大崎駅は始発電車が多いわけです。



昭和の中頃



明電舎



西口から百反方面



東京総合車両センター



航空写真



開通当時の隧道